

Magic Mat II の導入(2)(HP 収載)
—LINN LP12—

1. 始めに

今回は、Magic Mat II を LINNLP-12 に使用してみます。

2. Magic Mat II の試聴方法

厚さ 0.48mm の薄型ですので、既存のターンテーブルシートの上に敷いて使用してみます。現在のアナログプレイヤーのターンテーブルシートは、THE FUNK FIRM の Achromat ですので、その上に Magic Mat II を敷きます。Magic Mat II は薄いのでアームの高さ調整はしません。



音源は聴きなれた下記の盤を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. Magic Mat II の試聴結果

最初に Achromat の状態で聴いておき、Magic Mat II を敷いて聴き直します。

バッハの Sonatas & Partitas は、Achromat の状態でも、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしたことと、レコードアンチスタティックの効果で、艶のあるヴァイオリンの音色が魅力的です。Magic Mat II を敷きますと、音に締まりがでますが、艶や胴鳴りは後退します。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、Achromat の状態でも、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしたことと、レコードアンチスタティックの効果で、芳醇なピアノの響きが魅力的です。Magic Mat II を敷きますと、美しい音色はそのままに、また響きの良さを損なうことなく、より音に締まりがでて、高音の打鍵の音の精度が向上します。

ワーグナーのワルキューレは、Achromat の状態でも、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしたことと、レコードアンチスタティックの効果で、押し出しがよく、ソプラノやメゾソプラノの歌唱も張りがあり、迫力満点です。Magic Mat II を敷きますと、迫力はそのままに、解像度が向上し、ソプラノやメゾソプラノの歌唱位置の定位がしっかりしてきます。

ヘンデルのメサイアは、Achromat の状態でも、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしたことと、レコードアンチスタティックの効果で、合唱は力強く、ソリストの歌唱は張りがあつてのびやかです。

Magic Mat II を敷きますと、ソリストの歌唱はそのままに、合唱とオーケストラの解像度が増し、通奏低音の明瞭度が向上します。

4. まとめ

Magic Mat II はピアノの打鍵の精度や大編成の曲では解像度の向上など、望ましい方向に働きますが、反面ソロヴァイオリンなどの芳醇な響きは Achromat の状態が望ましく、音源によって使い分けることも必要と考えられます。

以上